

イスルギンヤ 伊須留波社 鳳至郡徳成谷内に鎮座する。當社藏永正丙寅年とある棟札には五社大権現と記し、文政社號帳には石動宮と載せる。今は石動神社といふ。

イスルギヒコジンジャ 伊須流波比古神社 鹿島郡石動山に鎮座する式内社で、中比大宮といふた。朝野群載に『永曆四年六月十日ト部宿禰兼宗奏龜卜御神下云々。能登國伊須流波比古神云々。』も是である。當社はもと天

命本地福智圓滿虚空藏菩薩、本社客人大権現伊弉册命本地十一面觀世音大士、火宮藏王大権現大物主命本地正觀世音菩薩、梅宮鎮定大権現天目一箇命本地將軍地藏菩薩、劍宮降魔大権現市木島姫命本地俱利伽羅不動明王を祀るを以て、石動山五社権現と稱した。しかし

客人大権現は本社と相殿となつてゐたから、社殿は四字あつたのである。又頂上大御前には別に權現堂があつた。明治以後是等廢し、大御前の權現堂を中腹に移して本殿とし、天平寺の講堂を拜殿に當て、伊弉諾尊以下の四柱を皆相殿とした。

イスルギヒコジンジャ 伊須流支比古神社 鹿島郡二宮に在つた。石動山に於ける伊須流岐比古神社の下社である。式内等舊社記に、『伊須流支比古神社。式内一座。朝日庄二宮村鎮座。當國二宮也。故稱二宮。其神靈石動山鎮座。』と見える。今はこの伊須流支比古神社を二宮神社と稱して相殿とし、相殿であつた

天日陰比咩神社を以て社號として居る。能登名跡志に、『此村天日陰比咩神社立給ふ。則二ノ宮大明神といふ。神主船木氏也。其昔天子に嘸の姫宮ありしが、此石動山へ籠り給ひし

を祭り奉りし御神跡也。』とある。アメノヒカゲヒメジンジャ 天日陰比咩神社。

イスルギヤマフシ 石動山伏 鹿島郡石動山天平寺の衆徒は眞言宗の清僧であつたが、元は修験道の山伏であつたので、後世までいするぎ山伏の語が残つてゐる。

イセサダヒロ 伊勢貞廣 通稱右京。監物貞意の子で、元祿十六年前田綱紀の爲に太刀作之記一卷を著し、寶永四年父の歿後その祿百人扶持を繼いで小將組に列し、享保七年に歿した。

イセサダムネ 伊勢貞意 通稱左衛門・監物。もと地下の官人で、有職故實に通じてゐたから、延寶五年に前田綱紀は之に百人扶持を興へ、大小將とした。元祿十四年侯の爲に鞍鏡之記一卷を著し、寶永四年歿した。

イセジンジャ 伊勢神社 鳳至郡石休場に鎮座する。この境内にあつて神木とせられる杉は、胸高周樹七米三、高二四米を有する。

イセノタヤ 伊勢の旅屋 藩政の時金澤新町に、伊勢外宮の御師福井土佐の止宿所があつて、神殿の裝飾を施し、之を伊勢の旅屋と稱した。土佐は毎年大祓を齎し、こゝから城下の土庶に頒布したが、明治四年五月之を廢した。

イセヤカンノン 伊勢屋觀音 鹿島郡高島に在る。能登名跡志に、『當國三十三番願禮十一番札所常樂寺とありしに、今寺なし。本尊觀世音は此村伊勢屋といふ者の方に安置あり。依て伊勢屋の觀音といふ。』とある。

イセヲドリ 伊勢齋 元和元年伊勢齋が大に流行した。金澤では少年等團體を組織し、盛装して踊りながら、神明宮から城中に至つ

て觀覽に供し、歸路士大夫の邸を巡歴した。その後土人も之に倣ひ、城内からも練り出したから、能登・越中より來觀するものすらあつた。夏に初り十月に至つて止んだ。三垂開誓に之を元和七年に係けるものは誤であらう。

イソカハコウハク 五十川剛伯 ↓イカハコウハク 五十川剛伯。

イソス 五十洲 ↓イギス 五十洲。

イソノドウジン 磯野道順 元祿元年二百石を以て召出され、同十三年歿した。子玄室を經、孫休與に至り十人扶持を受けたが、享保三年七月不行狀を以て召放された。

イソノナミ 磯の波 一冊。百足山人著。天保十二年七月十哲堂梓。一名を一夕俳談といふ。大坂の反古庵天來が俳諧七草を刊行して、梅室の俳風を難じたに對し、委しく辯解したものである。磯の波は打返すの意であらう。

イソヘ 磯部 河北郡鞍月庄に屬する部落。長享三年八月五日宗勝・敦秀在判、山門本院北谷學頭宛所の文書に、『加州倉月庄内磯邊廿町方事』とある。

イソベクニタマジンジャ 磯部國王神社 江沼郡にあつた。式内等舊社記に、『磯部國王神社。皆波村鎮座。祭神大物主命。』と見える。今大菅波に三輪神社あるものはであらう。

イソベジンジャ 石部神社 能美郡國府(今古府)に在つて、一國の惣社であつた。白山記には之を國の八社中に數へて、府南氣比、氣多、白山三社也。と記し、式内等舊社記には、『石部神社。式内一座。得禰郡國府村府南山鎮座。稱府南惣社。祭神大物主神。一説稱日方命。今里人稱船

見山王明神。船見府南也。』と書いてゐる。現に石部神社があり、大物主命を祭神とする。

イソマツロクザエモン 磯松六左衛門 元和元年前田利常に仕へて三百石を領し、子孫世々藩に仕へた。

イソメ 射初 射初は金澤城三ノ丸で正月四日に行はれた。藩侯は當日の年頭拜賀を受けた後大廣間に出座し、射初の式を行つた射手裁許・射手及びその嫡男に賜謁する。この日三ノ丸に鐵炮打初の儀があり、異風裁許・異風及びその嫡男等之を勤め、年寄の一人藩侯代理として臨場する。又藩侯の居室に近い馬場で乗初があり、藩侯若し試乗する時は一兩人が陪乘する。次に射初・打初・乗初を行つた者を松之間の二之間に召して目錄を賜はる。下賜品は射手裁許・異風裁許・馬奉行に麻上下一具宛、その外差がある。次いで土地之間に於いて、射手・異風に雜煮・吸物・取肴・酒、乘馬の徒は附席に於いて一汁三菜・取肴・酒、歩並の乘馬者は一汁二菜・煮物・取肴・酒、仲間小頭・足輕・足輕並に一汁二菜・酒を興へられる。この日又馬洗の儀もあつた。

イソリ 五十里 ↓イキリ 五十里。

イタガキトモサダ 板垣知貞 通稱小平。父は松平信濃守の臣板垣平右衛門。知貞慶安四年前田利常に仕へて二百石を受け、御使番・御先簡頭を經、寶永元年歿。子孫藩に世襲した。

イタガキノブアキ 板垣信精 通稱新藏。初名小十郎。父は小平知貞。信精非行あるを以て、寶永元年その子久五左衛門をして小平の後を受けしめ、己は翌年剃髮して如風と稱し、隱遁者となつて一生を終へた。之を以て